

報道発表

令和8年2月17日

沖縄地区税関

那覇空港の不正薬物摘発件数が過去最高を記録

– 令和7年沖縄地区税関における関税法違反事件の取締り状況 –

沖縄地区税関は、令和7年の1年間における管内の不正薬物等の密輸入関税法違反事件に係る取締り実績をまとめたのでお知らせします。

1. 不正薬物^{※1}等

- 不正薬物全体の摘発件数は52件（前年比50%減）、押収量^{※2,3}は約6,927.37g（同69%減）と共に大幅に減少した。
- 一方で、密輸形態別を見ると、航空機旅客による摘発が31件と過去最高を記録しており、極めて深刻な状況となっている。

※1 覚醒剤、大麻、麻薬(ヘロイン、コカイン、MDMA等)、向精神薬及び指定薬物をいう

※2 重量等未確定の場合には含まれないものがある（以下、個々の押収量についても同様）。

【覚醒剤】

- 摘発件数は2件と増減無しだが、押収量は約5,955.18gと大幅に増加（同約197倍）した。
- 押収量大幅増の要因として、令和7年10月に那覇空港で摘発された覚醒剤約6kgの事件が挙げられる。
- 押収した覚醒剤は、薬物乱用者の通常使用量で、約198,507回分、末端価格にして約3億4,540万円に相当する。

※3 通常使用量1回分は0.03g、末端価格は1g当たり58,000円（令和7年度時点）で換算。

【大麻】

- 摘発件数は21件と大幅に増加（同91%増）した一方で、押収量は約194.82gと大幅に減少（同81%減）し、小口事犯の増加傾向が見られる。

【麻薬】

- 摘発件数は12件（同84%減）、押収量は約99.85g（同99%減）と共に大幅に減少した。
- 前年に急増した「MDMB-4en-PINACA」の摘発が無くなつたこと、また前年は漂着コカインが押収量を押し上げていたことが大きな要因となっている。

【指定薬物】

- 摘発件数は15件と微増（同7%増）となった一方、押収量は約677.52gと大幅に減少（同76%減）し、小口化の傾向が見られる。

【銃砲等】

- 摘発件数は2件（同2倍）、押収量は2丁（同2倍）と共に増加した。

2. 金地金事犯

- 金地金^{※4}の摘発件数は2件（同72%減）、押収量は約517.63g（同98%減）と共に大幅に減少した。

※4 金地金には、金塊に加え一部加工された金製品も含む。

3. 知的財産侵害物品等

- 商標権を侵害する衣類等の知的財産侵害物品を1件告発した。
- リュウキュウヤマガメ等のワシントン条約該当物品の密輸出事件を告発した。



麻薬、覚醒剤、拳銃などの密輸情報は税関へ！

フリーダイヤル－シロイークロイ

税関密輸ダイヤル 0120-461-961

【問合せ先】 沖縄地区税關總務部税關広報広聴官 電話 098-996-5530

(資料1)

沖縄地区税關における社会悪物品の摘発実績

年 種類		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年比
覚醒剤	件	-	-	2	2	2	100%
	g	-	-	2,989.20	30.29	5,955.18	19661%
大麻	件	20	8	7	11	21	191%
	g	3,810.47	230.87	18.50	1,033.90	194.82	19%
大麻草	件	3	2	2	4	3	75%
	g	1,076.76	1.11	0.55	6.84	4.13	60%
THC類製品	件	R6.12.12摘発分から 計上開始			-	18	全増
	g				-	190.69	全増
大麻樹脂等	件	17	6	5	7	R6.12.11を以って 計上終了	
	g	2,733.71	229.76	17.95	1,027.06		
麻薬	件	5	3	19	77	12	16%
	g	2,266.95	31.97	46,245.75	18,648.28	99.85	1%
	錠	0	-	85	-	-	-
ヘロイン	件	-	-	-	1	-	全減
	g	-	-	-	4.20	-	全減
コカイン	件	2	-	6	3	1	33%
	g	2,251.50	-	46,192.23	14,613.50	0.32	0%
MDMA等	件	1	1	1	2	3	150%
	g	0.92	22.62	0.54	749.07	2.38	0%
	錠	-	1,933	-	-	-	-
ケタミン	件	-	-	1	1	3	300%
	g	-	-	0.00	12.13	24.80	204%
	錠	-	-	-	-	-	-
その他麻薬	件	2	2	11	70	5	7%
	g	14.53	9.35	52.98	3,269.38	72.35	2%
	錠	-	104	85	-	-	-
向精神薬	件	3	4	4	-	2	全増
	g	-	-	-	-	-	-
	錠	284	729	191	-	140	全増
指定薬物	件	5	3	19	14	15	107%
	g	1,976.75	683.18	2,296.14	2,819.03	677.52	24%
	錠	-	-	-	-	-	-
合 計	件	33	18	51	104	52	50%
	g	8,054.17	946.02	51,549.59	22,531.50	6,927.37	31%
	錠	284	729	276	0	140	全増
参考(使用回数)	回	104,825	4,971	1,639,753	498,831	200,572	40%

銃砲及び 銃砲部品	件	1	3	2	1	2	200%
	丁	1	4	1	1	2	200%
	点	-	-	-	-	-	-

- (注) 1. 令和6年、7年の数値は速報値である（以下、資料2～4-3についても同じ）。
2. 数量の表記について、「0」とは微量で重量を鑑定できない場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。
3. 端数処理のため数値が合わないことがある。
4. 「THC類製品」は、令和6年12月12日に施行された麻薬及び向精神薬取締法で規制されているTHC類を含有する液体・菓子類をいう。同施行日前は大麻取締法で規制されていた大麻樹脂、大麻リキッド・大麻菓子等の大麻製品を「大麻樹脂等」で計上していた。
5. ①MDMA等は、MDMA、MDA及びMDEの合計を示す。
 ②その他麻薬は、麻薬及び向精神薬取締法における麻薬のうち、大麻、ヘロイン、コカイン、MDMA等、ケタミン以外の薬種(LSD等)の合計を示す。
6. MDMA等、その他麻薬及び向精神薬については、錠剤型のものとその他のものを、それぞれ錠数ベースと重量ベースで別々に計上。覚醒剤の錠剤型のものは存在するが、事案が僅少であるため、重量換算し合計して重量ベースとして計上。
7. (参考) 使用回数は、以下の不正薬物について、乱用者の通常の一回分使用量をもとに換算し、合計したものである。
 (覚醒剤：0.03 g、大麻草：0.5 g、大麻樹脂：0.1 g、あへん：0.3 g、ヘロイン：0.01 g、コカイン：0.03 g、MDMA等及び向精神薬：1錠)

(資料2)不正薬物の密輸形態別摘発件数

(件)

年 形態別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
航空機旅客等による密輸入	-	1	21	22	31
国際郵便物を利用した密輸入	33	16	27	78	16
非公用軍事郵便物	28	13	18	58	6
船員等による密輸入	-	-	3	2	3
商業貨物を利用した密輸入	-	1	-	2	2
合 計	33	18	51	104	52

航空機旅客等には航空機乗組員を含み、船員等には船舶旅客を含む。また、商業貨物には、別送品を含む。

(資料3-1)覚醒剤の密輸形態別摘発実績

(上段:件、中段:g、下段:銭)

年 形態別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
航空機旅客等による密輸入	-	-	1	1	2
	-	-	2,989.20	24.35	5,955.18
国際郵便物を利用した密輸入	-	-	-	1	-
	-	-	-	5.94	-
船員等による密輸入	-	-	1	-	-
	-	-	0	-	-
商業貨物を利用した密輸入	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
合 計	-	-	2	2	2
	-	-	2,989.20	30.29	5,955.18

航空機旅客等には航空機乗組員を含み、船員等には船舶旅客を含む。

数量の標記について、「0」とは微量で重量を鑑定できない場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

(資料3-2)覚醒剤の仕出地別摘発実績

(件)

年 仕出地	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
米国	-	-	-	1	-
韓国	-	-	1	-	1
中国	-	-	1	1	-
タイ	-	-	-	-	1
合計	-	-	2	2	2

(資料4-1)大麻の密輸形態別摘発実績

(上段:件、下段:g)

年 形態別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
航空機旅客等による密輸入	-	1	4	7	14
	-	1.11	3.60	11.93	135.10
国際郵便物を利用した密輸入	20	6	3	3	6
	3,810.47	229.76	14.90	1,016.82	59.68
船員等による密輸入	-	-	-	1	1
	-	-	-	5.15	0.04
商業貨物を利用した密輸入	-	1	-	-	-
	-	0	-	-	-
合 計	20	8	7	11	21
	3,810.47	230.87	18.50	1,033.90	194.82

航空機旅客等には航空機乗組員を含み、船員等には船舶旅客を含む。また、商業貨物には、別送品を含む。

数量の標記について、「0」とは微量で重量を鑑定できない場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

(資料4-2)大麻草の仕出地別摘発実績

(件)

年 仕出地	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
米国	2	-	-	-	-
香港	-	-	1	1	1
タイ	-	-	1	2	1
カナダ	1	-	-	-	-
フランス	-	1	-	-	-
韓国	-	-	-	-	1
不明	-	-	-	1	-
合計	3	1	2	4	3

(資料4-3)大麻樹脂等又はTHC類製品仕出地別摘発実績

(件)

年 仕出地	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
米国	16	6	3	3	6
香港	-	1	1	-	1
台湾	-	-	1	1	2
中国	-	-	-	1	2
タイ	-	-	-	1	1
インド	-	-	-	1	1
カナダ	1	-	-	-	-
韓国	-	-	-	-	2
不明	-	-	-	-	3
合計	17	7	5	7	18

令和6年12月11日以前は大麻樹脂等の摘発件数を計上し、同月12日以降はTHC類製品の摘発件数を計上している。

(詳細については、(資料1)注記4を参照)。

(資料5-1)金地金の摘発件数

(上段:件、下段:kg)

年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
摘発件数	-	-	3	7	2
押収量	-	-	6.2	22.8	0.5

(資料5-2)金地金の密輸形態別摘発実績

年 形態別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
航空機旅客等による密輸入	-	-	3	3	2
国際郵便物を利用した密輸入	-	-	-	-	-
船員等による密輸入	-	-	-	4	-
商業貨物を利用した密輸入	-	-	-	-	-
合 計	-	-	3	7	2

航空機旅客等には航空機乗組員を含み、船員等には船舶旅客を含む。

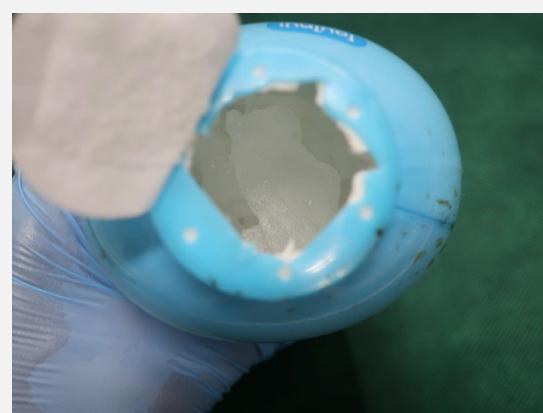
(資料5-3)金地金の仕出地別摘発実績

年 仕出地	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
台湾	-	-	2	1	-
香港	-	-	1	5	-
フィリピン	-	-	-	1	-
韓国	-	-	-		2
合計	-	-	3	7	2

那覇空港にて過去最多重量の覚醒剤を摘発

【摘発事例】

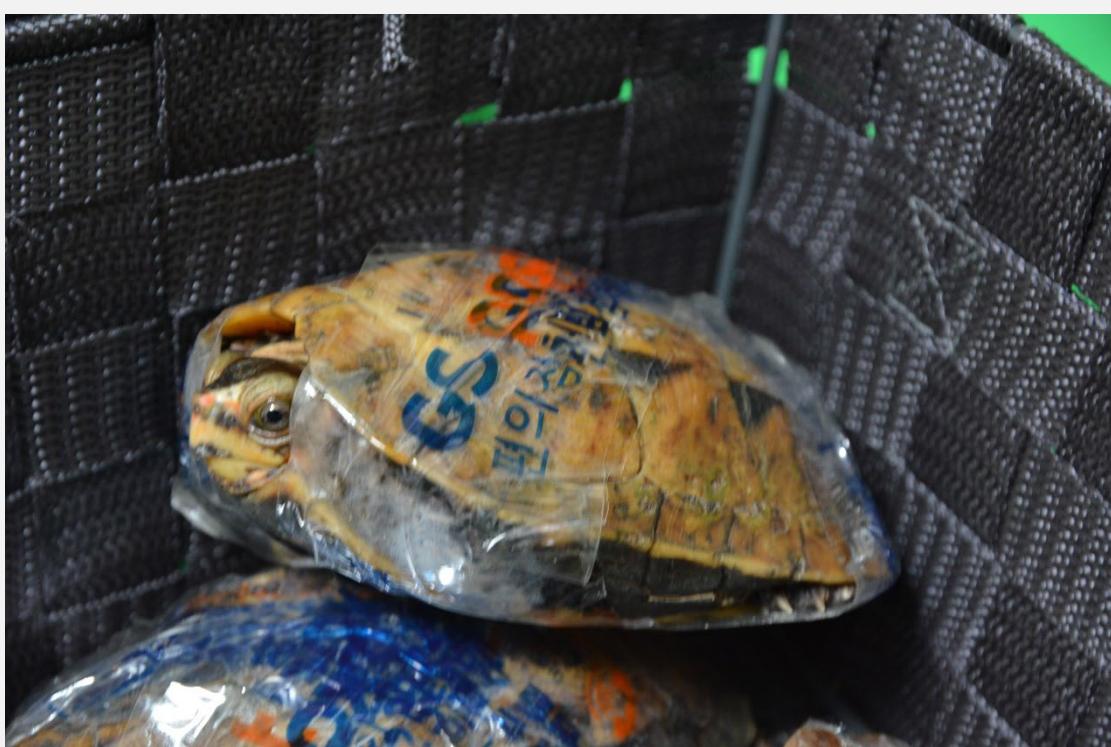
タイ来航空機旅客から 覚醒剤約 6kg を摘発（令和7年10月・那覇空港税関支署）



国際郵便物によるリュウキュウヤマガメ等の 不正輸出を摘発

【摘発事例】

香港向け国際郵便物から リュウキュウヤマガメ70匹、ホルストガエル1匹 を摘発
(令和7年9月・那覇外郵出張所)



那覇空港にて外国人旅客から麻薬を摘発

【摘発事例】

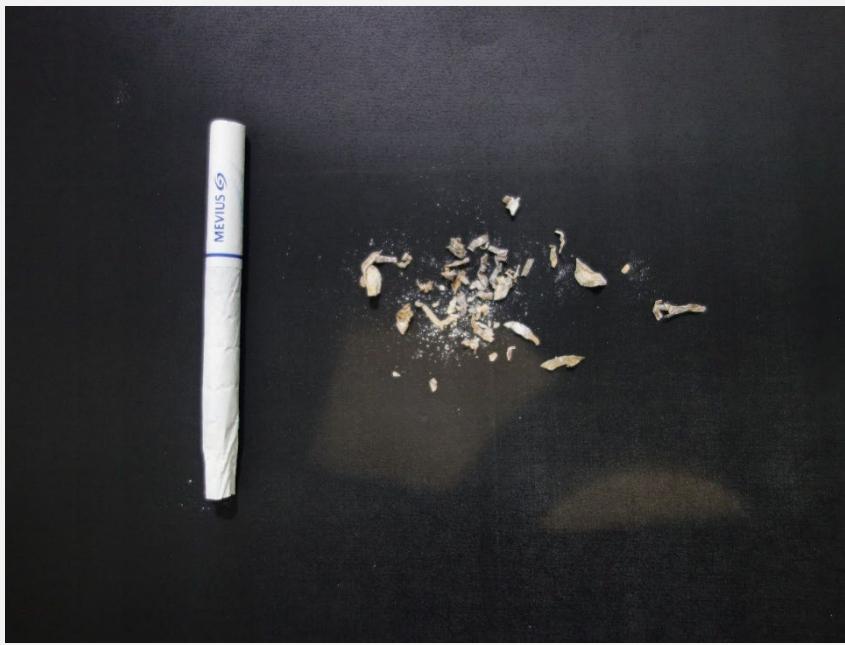
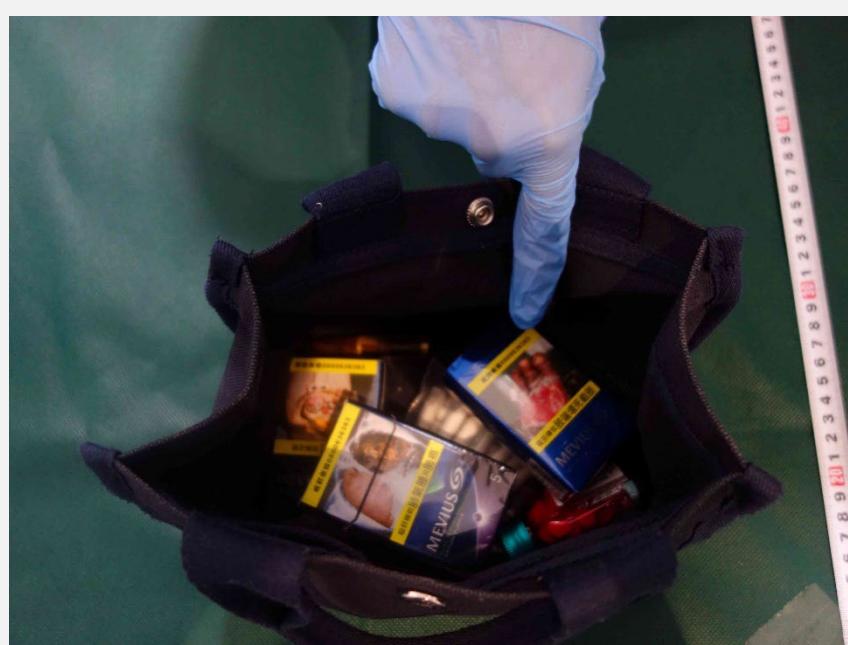
台湾来航空機旅客から 麻薬であるケタミン約17グラムを摘発
(令和7年9月・那覇空港税関支署)



那覇港にてクルーズ船旅客から麻薬を摘発

【摘発事例】

台湾来クルーズ船旅客から 麻薬であるケタミン約7グラムを摘発
(令和7年10月・本関監視部(那覇クルーズターミナル))

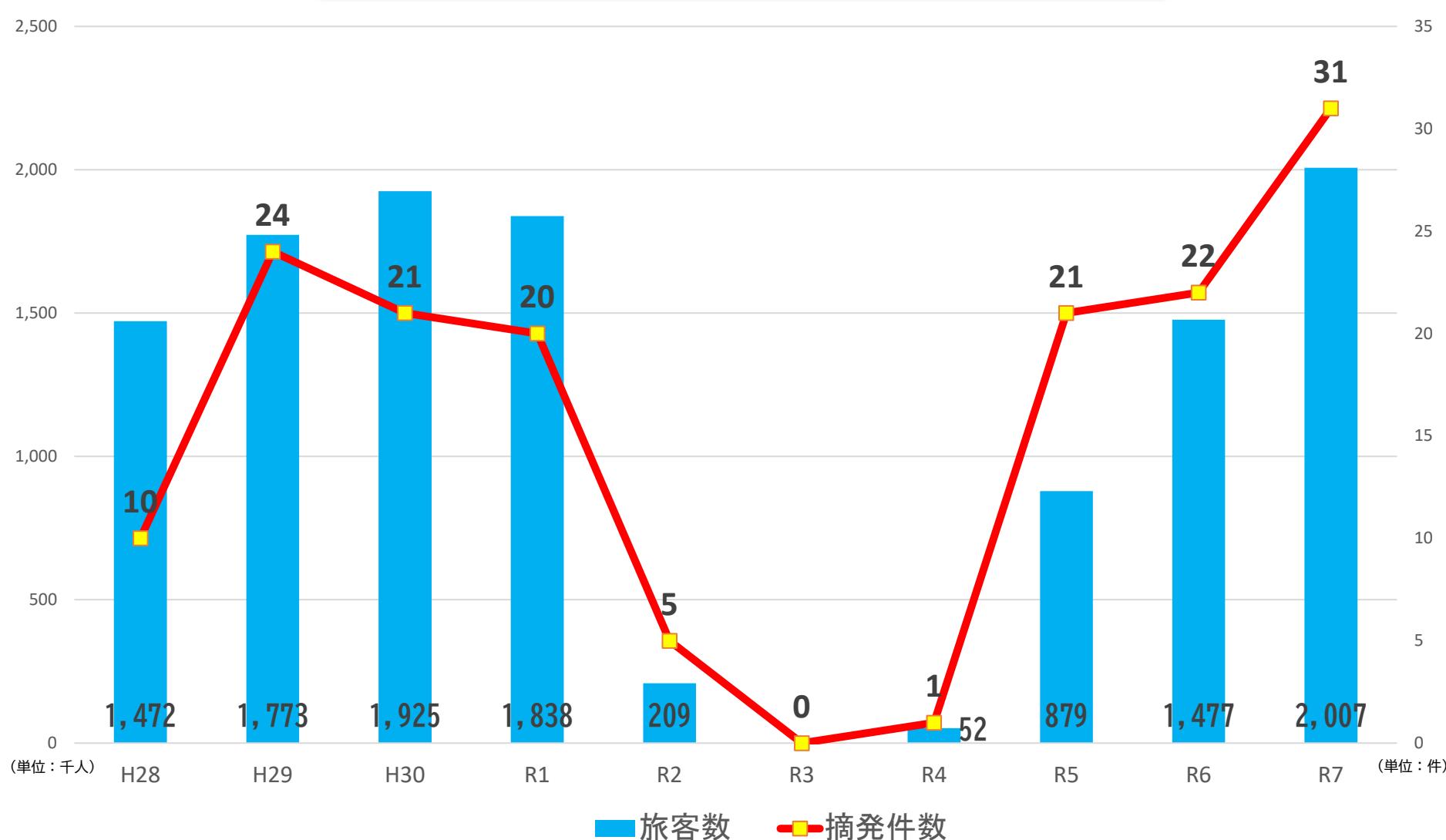


那覇空港の不正薬物摘発件数が過去最高を記録

令和7年の那覇空港における不正薬物密輸入事件の摘発が31件を記録し、統計史上最高となつた。

コロナ禍以降、インバウンド旅客の増加に伴い、不正薬物密輸入事件の摘発件数も増加傾向にあることから、税関では、これらの密輸入事犯に警戒を強めている。

不正薬物摘発件数及び入国旅客数の推移



薬物別の摘発件数の割合(H28～R7)

